

新撰歌集

卷

八十番

14  
3157  
21(2)





14  
3157  
21  
(2)

越後國  
三島郡  
七日山  
印

新類題發句集卷之部

四月

卯月

更衣

卯月と卯月の名や替り  
葉は卯月の事よ卯月  
衣は卯月の事よ卯月  
隣は卯月の事よ卯月  
衣は卯月の事よ卯月  
振舞は卯月の事よ卯月

蝶夢編



上法

故貝

太漢

春甫

京

百池

丹右

鼎二

信男

馬佛

左丈



裕

危舟も同じし海客の流るる  
高き山乃中なる山客の  
け能くも山客の流るる  
竹を朝の山客の流るる  
雁を朝の山客の流るる  
さゆせし娘の流るる  
曾あふぬ娘の流るる  
馬を舟に便ゆの流るる  
舟を舟に便ゆの流るる  
舟を舟に便ゆの流るる

舟客 一竹  
方壺  
山  
雪下  
騏道  
嶺山  
李雨  
素柳  
梅珠  
山客

綿括

青蓋

さゆせし娘の流るる  
裕を舟に便ゆの流るる  
舟を舟に便ゆの流るる  
舟を舟に便ゆの流るる  
舟を舟に便ゆの流るる  
舟を舟に便ゆの流るる  
舟を舟に便ゆの流るる  
舟を舟に便ゆの流るる  
舟を舟に便ゆの流るる  
舟を舟に便ゆの流るる

舟客 乙行  
陸奥 健月  
舟客 路  
塘里  
素柳  
山客  
山客  
山客  
山客  
山客



葵祭

日向のまきしき 葵の葉  
あまのついでに 物に古のまきしき  
福のついでに 肉のまきしき  
人あつたついでに 葵の葉  
着たついでに 葵の葉  
着たついでに 葵の葉  
葵の葉  
葵の葉  
葵の葉  
葵の葉  
葵の葉  
葵の葉

一州  
下地  
喜一  
虚白  
野陽  
魚渚  
滄浪  
蝶碎  
吳南  
吳南  
極序

日吉祭

長二

花祭

花のまきしき 葵の葉  
あまのついでに 物に古のまきしき  
福のついでに 肉のまきしき  
人あつたついでに 葵の葉  
着たついでに 葵の葉  
着たついでに 葵の葉  
葵の葉  
葵の葉  
葵の葉  
葵の葉  
葵の葉  
葵の葉

陸奥  
佐志  
馬籠  
吾舎  
蝶夢  
騏道  
一岸  
石見  
唐風  
石見  
一岸  
李山

千園子

灌佛會

灌佛のまきしき 葵の葉  
あまのついでに 物に古のまきしき  
福のついでに 肉のまきしき  
人あつたついでに 葵の葉  
着たついでに 葵の葉  
着たついでに 葵の葉  
葵の葉  
葵の葉  
葵の葉  
葵の葉  
葵の葉  
葵の葉

石見  
唐風  
石見  
一岸  
李山



佛生會

諸佛の坐すに持て高き  
諸位や姫子ももつて  
灌佛の儀に徳受の経  
丈六の坐すに佛の  
梅極の二重の坐すに  
の坐すにの坐すに  
おの坐すにの坐すに  
法にの坐すにの坐すに  
又も佛の坐すにの坐すに  
の坐すにの坐すにの坐すに

三打  
徳家  
呂竹  
布舟  
上吐  
素輪  
丹皮  
後川  
妻光  
尾  
吉友

佛壽湯

花生堂

長春

竿躑躅

かゝる世の佛も行くもの  
しるすに人の操りも  
世の中も竿躑躅  
月夜も竿躑躅  
一夜の山に竿躑躅  
さるるも竿躑躅  
夏も竿躑躅  
花も竿躑躅  
はるも竿躑躅

長  
陸  
下林  
菅歌  
吳琴  
葉人  
下谷  
花因  
魚階  
上吐  
俊次  
先  
不老

夏籠

夏花括







煮酒

海葦子

短夜

又よりの酒匂くは酒煮る那  
風車も停舟の所は風煮向  
ふの酒匂は酒煮る那  
ふの酒匂は酒煮る那  
ふの酒匂は酒煮る那  
ふの酒匂は酒煮る那  
ふの酒匂は酒煮る那  
ふの酒匂は酒煮る那  
ふの酒匂は酒煮る那  
ふの酒匂は酒煮る那

楚良  
不友  
之尺  
妻善  
如泉  
一貫  
柎也  
曹妹  
文里

五五

青嵐

短夜も清き月を照らす  
短夜も梅もさかきかき  
短夜も梅もさかきかき  
短夜も梅もさかきかき  
短夜も梅もさかきかき  
短夜も梅もさかきかき  
短夜も梅もさかきかき  
短夜も梅もさかきかき  
短夜も梅もさかきかき  
短夜も梅もさかきかき

之乃  
五柳  
菴室  
枝法  
豊人  
雄山  
斗吟  
野々  
杏水  
梅珠



麦秋

麦秋のやうな秋のやうな  
麦秋のやうな秋のやうな  
麦秋のやうな秋のやうな  
麦秋のやうな秋のやうな  
麦秋のやうな秋のやうな  
麦秋のやうな秋のやうな  
麦秋のやうな秋のやうな  
麦秋のやうな秋のやうな  
麦秋のやうな秋のやうな  
麦秋のやうな秋のやうな

冬六  
枝舟 晚翠 波瀾 梅東 厄當 重行 素兄 如泊 志得 冬人

麦刈

麦刈のやうな秋のやうな  
麦刈のやうな秋のやうな  
麦刈のやうな秋のやうな  
麦刈のやうな秋のやうな  
麦刈のやうな秋のやうな  
麦刈のやうな秋のやうな  
麦刈のやうな秋のやうな  
麦刈のやうな秋のやうな  
麦刈のやうな秋のやうな  
麦刈のやうな秋のやうな

茶木 馬傳 風如 輕舟 蘭戸 蕭雅 李山 洞雨 習之 青出



卯花

花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く

色江  
孤声  
杜音  
批睡  
古竹  
始百  
三三  
山笑  
重厚  
杏清

卯花  
卯浪

牡丹

卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く  
卯の花のついでに葉の末は白く

枝白  
路風  
洗籠  
凉瓜  
充之  
里左  
雷夫  
如菊  
五来  
峯子



芍藥

燕子花

深きも十日雨の中も花は  
一輪の塵を落しはるる  
芍薬や花の杜の草花  
花の香も十日雨の中  
花の影も十日雨の中  
今朝の雨も花の影も  
花の影も十日雨の中  
花の影も十日雨の中  
花の影も十日雨の中

深き 古き 巨馬 漢考 末之 支百 吏全 李冠 南浦

夏八

聖薬花

湯平の湯の香も十日雨の中  
けの湯の香も十日雨の中  
湯平の湯の香も十日雨の中  
湯平の湯の香も十日雨の中  
湯平の湯の香も十日雨の中  
湯平の湯の香も十日雨の中  
湯平の湯の香も十日雨の中  
湯平の湯の香も十日雨の中  
湯平の湯の香も十日雨の中  
湯平の湯の香も十日雨の中

土佐 度雄 尚古 香黄 江雁 龍門 恭漢 青馬 噴壺 稼穡 其思



蜀葵

蜀葵の葉は花より先に生ずるなり  
花は夏に開き赤白あり  
花の根は薬に用ひるなり  
花の葉は薬に用ひるなり  
花の根は薬に用ひるなり  
花の葉は薬に用ひるなり  
花の根は薬に用ひるなり  
花の葉は薬に用ひるなり

赤山

蒲尺

瓦全

子植

文推

鳥奴

宣朗

雪貞

如雷

富浪

薔花

薔花の葉は花より先に生ずるなり  
花は夏に開き赤白あり  
花の根は薬に用ひるなり  
花の葉は薬に用ひるなり  
花の根は薬に用ひるなり  
花の葉は薬に用ひるなり  
花の根は薬に用ひるなり  
花の葉は薬に用ひるなり

夏九

茨花

茨花の葉は花より先に生ずるなり  
花は夏に開き赤白あり  
花の根は薬に用ひるなり  
花の葉は薬に用ひるなり  
花の根は薬に用ひるなり  
花の葉は薬に用ひるなり  
花の根は薬に用ひるなり  
花の葉は薬に用ひるなり

赤山

翠兒

加皮

龜選

念夕

杏序

風送

木樨

東溟

筑峯

紫雲

田植

美人草

山岩藤

胡蝶草

鳶尾



忍冬花 躑躅草 茶柿神 玉卷芭蕉 玉卷芭蕉 蓮葉 芭蕉 落

其のついでに梅もさきよのぬ  
 神振て結もたぬや踊竹  
 七の角のまゝとれ舞の茶の草  
 やまのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ  
 新指のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ  
 一のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ  
 美のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ  
 倉のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ  
 美のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ  
 ふのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

出羽 山羽  
 民古  
 信濃 信濃  
 京 文星  
 梅斜  
 桑給  
 沙同  
 木朵  
 信濃 梅山  
 白常

五十一

蓼 青刺 芋植 青山椒 柑花 枳殼花 白丁花 鷹爪

神のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ  
 延のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ  
 まのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ  
 七のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ  
 美のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ  
 古のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ  
 石のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ  
 七のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ  
 奥のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ  
 也のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

陸奥 臨花  
 授雲  
 信濃 渡口  
 信濃 樅五  
 信濃 南善  
 信濃 許國  
 信濃 魚階  
 信濃 兼卿  
 無位  
 阿誰



梭桐花 繡練色 岩梨 叢椿 桐花 餘花

一もいふは打撃のたふしの家  
 秋葉丹精のしるしの花  
 一もいふは打撃のたふしの家  
 秋葉丹精のしるしの花  
 一もいふは打撃のたふしの家  
 秋葉丹精のしるしの花  
 一もいふは打撃のたふしの家  
 秋葉丹精のしるしの花  
 一もいふは打撃のたふしの家  
 秋葉丹精のしるしの花

桃斗 一扇 麻字 師中 啞水 西李 起東 柯杏 孤舟 碧茗

其十

梅梅 病葉 嫩葉花

梅梅のしるしの花  
 病葉のしるしの花  
 嫩葉花のしるしの花  
 梅梅のしるしの花  
 病葉のしるしの花  
 嫩葉花のしるしの花  
 梅梅のしるしの花  
 病葉のしるしの花  
 嫩葉花のしるしの花  
 梅梅のしるしの花  
 病葉のしるしの花  
 嫩葉花のしるしの花

梅堂 月橋 雀文 玉六 雀文 其葉 文里 玉圃 玉川 冬射



梅  
嫩楓  
葉柳

梅の枝は横入りて馬の毛の如し  
葉柳の葉は人の心を知る如し  
嫩楓の葉は人の心を知る如し  
葉柳の葉は人の心を知る如し  
梅の枝は横入りて馬の毛の如し  
葉柳の葉は人の心を知る如し  
嫩楓の葉は人の心を知る如し  
葉柳の葉は人の心を知る如し

梅 宗瑞  
嫩楓 甲斐 祖明  
葉柳 東舟 櫻次

草茂  
夏野

草茂の葉は人の心を知る如し  
夏野の葉は人の心を知る如し  
草茂の葉は人の心を知る如し  
夏野の葉は人の心を知る如し  
草茂の葉は人の心を知る如し  
夏野の葉は人の心を知る如し  
草茂の葉は人の心を知る如し  
夏野の葉は人の心を知る如し

草茂 伊豆 青李  
夏野 陸奥 有次  
草茂 伊豆 青李  
夏野 陸奥 有次



夏山

春の山は花の山なり  
夏は山は松の山なり  
秋は山は紅葉の山なり  
冬は山は雪の山なり  
春の山は花の山なり  
夏は山は松の山なり  
秋は山は紅葉の山なり  
冬は山は雪の山なり

春馬

白雪

花縣

石橋

白子

采女

梅東

漸々

春

夏

夏山

夏川

春櫻木落葉

春の櫻木は花の山なり  
夏は山は松の山なり  
秋は山は紅葉の山なり  
冬は山は雪の山なり  
春の櫻木は花の山なり  
夏は山は松の山なり  
秋は山は紅葉の山なり  
冬は山は雪の山なり

春

夏山

竹落葉

竹

春の竹は花の山なり  
夏は山は松の山なり  
秋は山は紅葉の山なり  
冬は山は雪の山なり  
春の竹は花の山なり  
夏は山は松の山なり  
秋は山は紅葉の山なり  
冬は山は雪の山なり

無諱

此相

志積

致理

鳥牧

素柳

晴春

曉臺

孤海



杜鰓 條子

Handwritten cursive text in vertical columns, likely a list of names or characters.

Printed labels below the cursive text, including characters like 山, 石, 海, 后, 尾, 女, 山, 石, 后, 尾, 女, 山, 石, 后, 尾, 女.

長十五

杜鰓

Handwritten cursive text in vertical columns, similar to the right page.

Printed labels below the cursive text, including characters like 山, 石, 海, 后, 尾, 女, 山, 石, 后, 尾, 女.

長十六



老當

郭のりあつては國のま  
り神のりあつては神の  
神のりあつては神の  
竹のりあつては竹の  
本のりあつては本の  
田のりあつては田の  
枯のりあつては枯の  
下のりあつては下の  
男のりあつては男の  
老のりあつては老の

山曉  
蘇夢  
卷里  
滄波  
延長  
古行  
得魚  
以白  
二條  
老當

夏十六

舊音

くわんわんわん一あまのむすめ  
まのりあつてはまのりあつては  
まのりあつてはまのりあつては  
まのりあつてはまのりあつては  
まのりあつてはまのりあつては  
まのりあつてはまのりあつては  
まのりあつてはまのりあつては  
まのりあつてはまのりあつては  
まのりあつてはまのりあつては  
まのりあつてはまのりあつては

古帆  
階上  
朝宇  
集家  
争茂  
集家  
五井  
同夢  
重厚  
古音

布穀

然りては布穀のりあつては

古音



ある一羽をたのむるのうらみ  
ふゆふゆとてはなれぬ陽暉  
春の八幡もさかぬ事若も  
はまのうらみもたのむるかか  
親意のふゆとてはなれぬ  
人乃其の河をたのむる福候  
のふゆもたのむるかか  
朝霧のふゆもたのむるかか  
はなれぬのふゆもたのむる

此 桃之  
石化 此 錦  
同喜 雀茶  
石化 和重  
聖鴉 如伯  
李山 丈草

三十七

行々子  
行々子  
行々子  
行々子

のふゆもたのむるかか  
ふゆもたのむるかか  
ふゆもたのむるかか  
布敷のふゆもたのむるかか  
はなれぬのふゆもたのむるかか  
春のふゆもたのむるかか  
ふゆもたのむるかか  
ふゆもたのむるかか  
ふゆもたのむるかか  
ふゆもたのむるかか

此 桃之  
用 志功  
尾 李山  
上 馬六  
上 杉雪  
上 琴枕  
上 倉波  
上 四祖  
青 祖



葭切 方目鳥 青鷺 鷹持入 蝙蝠

Handwritten cursive text corresponding to the characters above, including characters like 船, 朝, 鶴, 青, 鷹, 蝙, 蝠.

白干 赤壳 吏全 苦成 陶々 松涛 三考 折凡 依分

土鴨 蓋

Handwritten cursive text on the left page, including characters like 指, 甚, 野, 瓜, 涼, 城, 素, 遊, 雅, 蓋.

指月 甚調 野城 瓜涼 素遊 雅蓋







蚊柱

あつらひもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ

信使

梧菴 杜栗 行亮 丁水 岳缸 菊橋 雪秋 唇凡 子影 蝶爰

夏中

蚊帳

紙帳

蚊遣火

あつらひもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ  
ぢりもきこもく風のあ

梧菴 杜栗 行亮 丁水 岳缸 菊橋 雪秋 唇凡 子影 蝶爰



蠶金  
 蠶糸取  
 堅魚  
 好色の火も燦々として入る言海  
 痛の熱境の糸も好色と非  
 名り火も女も好色と非  
 一里好色もあふり好色  
 不〜〜〜〜〜健也蘭子入  
 小言も仲もあふり好色  
 物心も好色もあふり好色  
 一車好色もあふり好色  
 上り好色もあふり好色  
 約也好色もあふり好色

出寸江  
出香堯  
出桂蘭  
出我白  
出土祢  
出幽管  
出似柳  
出發雨  
出里雪  
出其柳

長廿一

鯉生節  
 鮎  
 鹿袋角  
 臯月  
 五月  
 生りも好色もあふり好色  
 今も好色もあふり好色  
 能好色もあふり好色  
 揚り好色もあふり好色  
 今も好色もあふり好色  
 好色もあふり好色  
 好色もあふり好色  
 好色もあふり好色

出同福  
出蘭子  
出買山  
出葛毒  
出鹿袋  
出葎道  
出廿二  
出完来







葛蒲

水多り清し 結ぶる花の露  
竹の子吹く 音の清き

梅明  
子世

葛蒲

細く刃結ぶる花の露  
葉の清き音の清き

陶々  
賈友

藥玉

清き音の清き音の清き

夜打

粽

毎年の清き音の清き音の清き

五鹿

清き音の清き音の清き

雪根

清き音の清き音の清き

傘羽

懺

清き音の清き音の清き

陰浪

夏廿

飾境

人の清き音の清き音の清き

越水

印地打

清き音の清き音の清き

素琴

加藤

清き音の清き音の清き

吹笛

藥日

清き音の清き音の清き

太僕

柳也

清き音の清き音の清き

白兒







梅雨

花葉のしづかにあけぬ  
石芽のまじりにあけぬ  
梅雨のしづかにあけぬ  
五合のしづかにあけぬ  
縁のしづかにあけぬ  
市井のしづかにあけぬ  
古のしづかにあけぬ  
あけぬのしづかにあけぬ  
あけぬのしづかにあけぬ  
あけぬのしづかにあけぬ

花葉  
石芽  
梅雨  
五合  
縁  
市井  
棋盤  
東之  
染

廿五

五月霞

五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ

五月霞  
五月霞  
五月霞  
五月霞  
五月霞  
五月霞  
五月霞  
五月霞  
五月霞  
五月霞

梅雨晴

五月霞

五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ  
五月霞のしづかにあけぬ

五月霞  
五月霞  
五月霞  
五月霞  
五月霞  
五月霞  
五月霞  
五月霞  
五月霞  
五月霞



白駒

虎雨

吟

白駒の影をみれば  
昔の事も思ふ  
虎雨の音をきけば  
今も思ふ  
吟の聲をきけば  
心も思ふ  
来りては  
去りては  
思ふ

松後  
此柳

白駒

文曉

古能

牧牛

参子

嵐字

沂風

綺石

唱

夏廿六

吟

吟

吟

花露

花露の滴るを  
見れば  
思ふ  
吟の聲を  
きけば  
心も  
思ふ  
来りては  
去りては  
思ふ

回茶

菜二

加角

彦甫

秋水

阿人

素友

當子

一泉

花道



石菖蒲

石菖蒲一名石菖蒲

石菖蒲一名石菖蒲

石菖蒲一名石菖蒲

石菖蒲一名石菖蒲

石菖蒲一名石菖蒲

石菖蒲一名石菖蒲

石菖蒲一名石菖蒲

石菖蒲一名石菖蒲

石菖蒲一名石菖蒲

石菖蒲一名石菖蒲

生羽 李字

未 鶴翅

此 蝶翼

花 圓策

素兄

害流

青樓

冬雪

苦而

夏世

萱草花

芍藥花

牡丹花

萱草花一名萱草花

芍藥花一名芍藥花

牡丹花一名牡丹花

牡丹花一名牡丹花

牡丹花一名牡丹花

牡丹花一名牡丹花

牡丹花一名牡丹花

牡丹花一名牡丹花

牡丹花一名牡丹花

牡丹花一名牡丹花

百合花

荷花

蘭花

百合花一名百合花

荷花一名荷花

荷花一名荷花

荷花一名荷花

荷花一名荷花

荷花一名荷花

荷花一名荷花

荷花一名荷花

荷花一名荷花

荷花一名荷花

生羽 卧毫

毛羽 玉燕

羽 柳枝

羽 案文

羽 東下

羽 此流

羽 道肥

羽 幾華

羽 傾傘



芙蓉

芙蓉の白くもあはれはなほ  
うらみもあはれはなほ  
うらみもあはれはなほ  
うらみもあはれはなほ  
うらみもあはれはなほ  
うらみもあはれはなほ  
うらみもあはれはなほ  
うらみもあはれはなほ  
うらみもあはれはなほ  
うらみもあはれはなほ

善哉  
古道  
芝友  
秋水  
二羽  
桃路  
坐来  
楽枕  
毛雨  
帆風

長十八

善木

酸梅

耳多南

杜鵑花

栗花

善木の  
酸梅の  
耳多南の  
杜鵑花の  
栗花の  
おもしろくもあはれはなほ  
おもしろくもあはれはなほ  
おもしろくもあはれはなほ  
おもしろくもあはれはなほ  
おもしろくもあはれはなほ  
おもしろくもあはれはなほ  
おもしろくもあはれはなほ  
おもしろくもあはれはなほ  
おもしろくもあはれはなほ  
おもしろくもあはれはなほ

猶祖  
晋信  
二泊  
左良  
左良  
戲蝶  
順古  
塙隠  
麥陀  
榊木



於雀  
 月湖  
 重厚  
 龍足  
 亞直  
 杏庵  
 楊芽  
 翠江  
 馬瓶

柘榴花

未央柳

盧橘

合歡公

夏十九

柳花  
 棟花  
 南玉公  
 紫陽花

福... 柳... 花... 散... 庵... 巴... 文...  
 雨... 柳... 花... 散... 庵... 巴... 文...  
 南... 玉... 公... 柳... 花... 散... 庵... 巴... 文...  
 紫... 陽... 花... 柳... 花... 散... 庵... 巴... 文...

大福 柳水  
 巴文  
 散庵  
 由古  
 柳仙  
 白登  
 里由  
 一  
 文



此の如き人... 花... 下毛花... 覆盆子... 桑實... 山梔子...

花 開花  
尾花 花角  
和京 宇中  
信 珠雨  
丹 遠射  
女 山梔子

夏三

生胡桃 青梅 于梅 黄桃 早桃 李子

如左 瓦山 片土 角山 有隣 笠古 細雲 青窓 玉園 晋信



楊梅	秋毛
枇杷	雪梨
早松茸	二竹
菘	白兒
莧	玄仙
茄子	魯白
	李山
	菘麗
	可也
	蘭戸

瓜花	錢氏
越瓜	素兒
胡瓜	綠夢
若竹	送馬
	送純
	若淨
	立齋
	留齋
	標碎
	冷水

菓子



合衆行

わが舟はさきへ旅のこゝろなる  
私舟はさきへ旅のこゝろなる  
さきへ旅のこゝろなる  
あきさつらつら舟をのりて  
若舟の場を討ち討ち  
月夜はるる舟をのりて  
私舟はさきへ旅のこゝろなる  
わが舟はさきへ旅のこゝろなる  
さきへ旅のこゝろなる  
改めし舟をのりて

杜中  
去丈  
陶  
如圖  
盤凡  
五束  
供養  
羽子  
支百

長子二

竹波落

早苗圃

るる舟はさきへ旅のこゝろなる  
さきへ旅のこゝろなる  
さきへ旅のこゝろなる  
さきへ旅のこゝろなる  
さきへ旅のこゝろなる  
さきへ旅のこゝろなる  
さきへ旅のこゝろなる  
さきへ旅のこゝろなる  
さきへ旅のこゝろなる  
さきへ旅のこゝろなる

下北 霞巡  
日向 杜若  
土佐 白鹿  
發音 白鹿  
須古  
強馬 一眠  
大和 如洋  
花溪



早苗

田植

けりきふぞちのけりきふぞち  
少くも我らうしりしりしり  
苗もや能のくま指のまじ  
柿もよふ山崎のまじりて  
くまもよふ山崎のまじりて  
あまもよふ山崎のまじりて  
梅もよふ山崎のまじりて  
一もよふ山崎のまじりて  
あまもよふ山崎のまじりて  
あまもよふ山崎のまじりて

泰山  
藤亭  
故栖  
折風  
蝶碎  
呂教  
紫山  
指嶋  
慈愛  
東園

長子春

早女

あまもよふ山崎のまじりて  
あまもよふ山崎のまじりて  
あまもよふ山崎のまじりて  
あまもよふ山崎のまじりて  
あまもよふ山崎のまじりて  
あまもよふ山崎のまじりて  
あまもよふ山崎のまじりて  
あまもよふ山崎のまじりて  
あまもよふ山崎のまじりて  
あまもよふ山崎のまじりて

南龍  
紫山  
木北  
鳥秋  
千友  
了明  
杜音  
竹波  
楚時  
青宮



青田

余の青田の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く

出石 杜考

谷水

膳母

朱結

巻糸

蘭戸

探巻

巴川

竹雨

曹泥

回葉

葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く  
葉の如く清葉の如く

長門 曹泥

豆植

菽の如く清葉の如く  
菽の如く清葉の如く  
菽の如く清葉の如く  
菽の如く清葉の如く  
菽の如く清葉の如く  
菽の如く清葉の如く  
菽の如く清葉の如く  
菽の如く清葉の如く  
菽の如く清葉の如く  
菽の如く清葉の如く

糸 作糸

古牧

東舟

太布

鳳効

葉二

楚流

右次

度雄

斗六



雲龍

水ノ事ニ修ラセラルルガ  
田ノ事ハ何カニモカ  
草ノ事ハ何カニモカ  
花ノ事ハ何カニモカ  
鳥ノ事ハ何カニモカ  
虫ノ事ハ何カニモカ  
魚ノ事ハ何カニモカ  
石ノ事ハ何カニモカ  
土ノ事ハ何カニモカ  
木ノ事ハ何カニモカ

東鏡  
雲龍  
耳書  
得性  
琴文  
如法  
同繁  
煎花  
吳三

雲龍

雲符

五三五

蝸牛

古者  
十士  
支百  
梨青  
秋香  
陶々  
字相  
至峰  
江山  
反雨

純  
純  
出  
出  
出  
出  
出  
出  
出  
出



蚰蜒

蛭

蚊

蟪蛄生

附蠃は乃て抱きくせしむ

つのはねて何れおとけり地平

角をくしひききすより結露

を多くとくふふ大さるあめり

蛭よるあめりしはるあめり

蟪蛄を相とくあめり

まじりや人も一蟪蛄を舞く

蚊母や何れ事をもくあめり

夕暮の蚊母や木根所

かきくもやけあめり

吏令

古休

蟪蛄

希聖

桃李

吳南

蟪蛄

鶴眠

菜陽

夕口

五三六

蛇脱衣

水難

鴉川

雨の日や浪もは清く入りの

雲川のまじりや地のも

地まあめりもあめり

よけ人のあめりもあめり

あめりもあめりもあめり

あめりもあめりもあめり

井堰もあめりもあめり

あめりもあめりもあめり

あめりもあめりもあめり

あめりもあめりもあめり

竹風

千主

里石

雨山

四春

白老

竹葉

木鶏

笑漢

蝶夢



翡翠  
羽脫鳥  
鶉菜  
水鳥菜

子...  
 無...  
 十...  
 心...  
 川...  
 上...  
 聖...  
 知...  
 朝...

梧堂  
 如伯  
 盤舟  
 鳥名  
 桃李  
 貝朱  
 玉雪  
 標六  
 志江  
 舞酒

五三七

龜啼  
築打  
唐子

色...  
 波...  
 其...  
 修...  
 主...  
 名...  
 夕...  
 築...  
 新...  
 唐...

如毛  
 扇律  
 放戶  
 枝法  
 玉屑  
 秋野  
 鶴兒  
 露候  
 鯉玉  
 凌冬



照射

美しき花を照らす  
甲斐の山に咲く花は  
竹の葉に影を落とす  
夕陽の光を浴びて  
雲の隙から光を  
透らす花の影を  
草花の葉に影を  
落とす花の影を  
透らす花の影を  
透らす花の影を

凡十

菊隠

軒秋

染紫

公輪

色白

園更

古野

路人

坐看

火串

小鱈

干鰓

夏三人

曝布

夏衣

産羽織

帷子

まき草の葉を照らす  
照らす花の影を  
透らす花の影を  
透らす花の影を  
透らす花の影を  
透らす花の影を  
透らす花の影を  
透らす花の影を  
透らす花の影を  
透らす花の影を

坐看

燦研

士厚

睡花

航翠

行月

魚恩

巴水

佛舟

立來



辻花

喜多川のほとり  
はなをみれば  
はなをみれば

源六  
糸吟  
間山

六月

水無月

水無月の夜  
みづも月の夜  
みづも月の夜

作良  
如泊  
古謙

氷室

氷室のほとり  
氷室のほとり  
氷室のほとり

牛藝  
廿西  
但言  
西屋  
浪客  
廻心

五三九

氷賣

氷賣のほとり  
氷賣のほとり  
氷賣のほとり

上柳  
唱祖  
杜音

氷餅

氷餅のほとり  
氷餅のほとり  
氷餅のほとり

兼談  
縁袴

一夜酒

一夜酒のほとり  
一夜酒のほとり  
一夜酒のほとり

用坊  
枝風

嘉祥

嘉祥のほとり  
嘉祥のほとり  
嘉祥のほとり

如平  
青丈  
万花

祇園會

祇園會のほとり  
祇園會のほとり  
祇園會のほとり

兼道







歌代

聖姫籠

半及生

土用

土用下

草の編み秋の川に流るる水  
かゝる水は流るる水は流るる水  
形も水も流るる水は流るる水  
涼しや水の流るる水は流るる水  
秋の流るる水は流るる水は流るる水  
月も水も流るる水は流るる水  
秋の流るる水は流るる水は流るる水  
秋の流るる水は流るる水は流るる水

東之  
比奈知  
南洞  
路静  
魚光  
夜打  
雨融  
葉屋  
白岩

夏四一

虫下

虫の心の中は春の鳥ありて  
虫の心の中は春の鳥ありて  
虫の心の中は春の鳥ありて  
虫の心の中は春の鳥ありて  
虫の心の中は春の鳥ありて  
虫の心の中は春の鳥ありて  
虫の心の中は春の鳥ありて  
虫の心の中は春の鳥ありて  
虫の心の中は春の鳥ありて  
虫の心の中は春の鳥ありて

浦文  
鳥曉  
如泊  
吳山  
嘯山  
歌之  
箕町  
材吾  
安南  
如毛



扇  
 七二に言ふに刀打ぬを扇  
 切てや世に母と云ふ人  
 出たりてもくちり陣に  
 去拂へば打回さる結ぶ事  
 去りや記書すも打の本  
 去りや折る事一の本  
 紋もろ産すもあつての乳  
 折る事いふに折る事  
 折る事いふに折る事  
 折る事いふに折る事

扇  
 鳳 諸  
 燕 友  
 航 翠  
 也 柳  
 效 枝  
 金 生  
 葉 二  
 黒 沢

夏四二

扇  
 阿つてもあつて女あつても  
 云ふに折る事あつてもあつても  
 惟もろ産すもあつての乳  
 折る事いふに折る事  
 折る事いふに折る事  
 折る事いふに折る事  
 折る事いふに折る事  
 折る事いふに折る事  
 折る事いふに折る事  
 折る事いふに折る事

麦 光  
 魚 潜  
 翠 室  
 是 龍  
 獲 瑞  
 俊 祐  
 几 草  
 此 川  
 燕 志  
 河 風

扇



行拭 掛香 日傘 簾

夕ぐれにちかづくも 白  
 眼も 雨も 風も 女良  
 草も 虫も 鳥も 二あも  
 花も 月も 星も 行ぬも  
 あも 入も 出も ぬも 拭  
 うも 香も 煙も 雲も 日傘  
 掛も 日傘 掛も 日傘 掛  
 すも 日傘 掛も 日傘 掛  
 拭も 日傘 掛も 日傘 掛

張の 兼白  
 送人  
 坐忘  
 坐忘  
 幽管  
 大和  
 一誓  
 後居  
 一誓  
 紀片  
 子晋  
 一誓

耳西老

籠枕 抱籠

さくらも 月も 花も 草も  
 柳も 桜も 梅も 竹も  
 かたも 籠も 抱も 籠も  
 抱も 籠も 抱も 籠も  
 たも 籠も 抱も 籠も  
 抱も 籠も 抱も 籠も  
 抱も 籠も 抱も 籠も  
 抱も 籠も 抱も 籠も

行亮  
 杏流  
 東芽  
 素兄  
 日金  
 杉島  
 猪史  
 只言  
 左隆  
 連而

暑

あも 暑も 暑も 暑も  
 あも 暑も 暑も 暑も  
 あも 暑も 暑も 暑も  
 あも 暑も 暑も 暑も

連而



方丈の山門をくぐりて  
 風をくぐりて山門をくぐりて  
 風をくぐりて柳をくぐりて  
 空をくぐりて空をくぐりて  
 夜をくぐりて人の行をくぐりて  
 暑をくぐりて人の行をくぐりて  
 日をくぐりて空をくぐりて  
 傍をくぐりて空をくぐりて  
 星をくぐりて空をくぐりて  
 月をくぐりて空をくぐりて

山門  
 志江  
 山門  
 佛舟  
 潮屯  
 陰波  
 定雅  
 龍口  
 山門  
 青牛

其四田

雲峯  
 けしきも雲の如く  
 山門をくぐりて  
 風をくぐりて山門をくぐりて  
 風をくぐりて柳をくぐりて  
 空をくぐりて空をくぐりて  
 夜をくぐりて人の行をくぐりて  
 暑をくぐりて人の行をくぐりて  
 日をくぐりて空をくぐりて  
 傍をくぐりて空をくぐりて  
 星をくぐりて空をくぐりて  
 月をくぐりて空をくぐりて

山門  
 梅珠  
 山門  
 僅茶  
 山門  
 扇風  
 山門  
 杏水  
 山門  
 只有  
 山門  
 二杏  
 山門  
 千苓  
 山門  
 巴川  
 山門  
 菊男



白雨

白雨の音は心ゆくも  
中々に雨の音は  
くもくもと云ふは  
ゆきゆくも心ゆくも  
ゆきゆくも心ゆくも  
ゆきゆくも心ゆくも  
ゆきゆくも心ゆくも  
ゆきゆくも心ゆくも

菫文 重厚 白麻 紫心 成夏 梨陰 所鳳 馬來 李庭 春南

長田ノ五

雨乞

雨乞の音は心ゆくも  
ゆきゆくも心ゆくも  
ゆきゆくも心ゆくも  
ゆきゆくも心ゆくも  
ゆきゆくも心ゆくも  
ゆきゆくも心ゆくも  
ゆきゆくも心ゆくも  
ゆきゆくも心ゆくも  
ゆきゆくも心ゆくも

菅杉 東芝 習之 榎席 那弓 葛下 北条 後川 臨華 紫心



凉

Handwritten Japanese text in cursive style, consisting of approximately 12 vertical columns of characters.

木越 砂旭 杜由 寸耳 馬瓢 馬吹 松清 羽立 曹川 曾始

五十四六

蕙風

納凉

Handwritten Japanese text in cursive style, consisting of approximately 12 vertical columns of characters.

何遠 披雲 東李 縁采 吳徳 雨人 龜息 迎月 了卜 雪下



四條納涼

蕙風

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a poem or a list of items related to the 'Four Rivers Cooling' theme.

定雅 草月 羽白 素心 舌毫 可能 蝶夢 周瓜

夏四十七

加茂納涼

清水

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a poem or a list of items related to the 'Kamo Cooling' theme.

起友 二曲 百重 唐蝶 電文 李雨 秋瓜 紫曉 朴二 騏北



### 打水

天... 踏... 馬... 性... 心... 心... 心... 心... 心...  
 一瓢 彩石 宗漢 東蘇 是月 其殺 龜兄 五竹 鳳高

夏四ノ八

### 水賣

### 葛水

心大... 本... 心... 心... 心... 心... 心... 心... 心...  
 腫毒 吳門 撮交 春如 八桂 几華 送立 行元 錦水 柳史



水飯	引飯	切麥	冷汁	煮冷	麻地酒	夏切茶	香露散		
水飯不氣味くさるる者のこと 引飯や少くくさるる居る物 乾いものやつらきもの色味 既の毒やれも毒と切替の門 之やれも指し移るる毒の毒 冷汁下りるもの味も味し 煮冷もや湯の毒もさるる種 麻地酒はあつたあつた麻地酒 夏切茶は古茶よりぬきぬき 香露散は古露よりぬきぬき	蕪隠	得々	由木	冬查	東阿	孝安	醫海	為工	滄浪

夏四九

夏瘦	熱痺	曝井	蓮							
夏瘦は秋に候てくさるる月の たる毒や月の夜より生るる ふりふり小粒の毒あつた おのろもけの白くさるる はる井もやれ毒より生るる 後井もやれ毒より生るる 蓮は古蓮よりぬきぬき 曝井は古曝井よりぬきぬき 熱痺は古熱痺よりぬきぬき 夏瘦は古夏瘦よりぬきぬき	雪居	丈波	几董	作雲	南瓜	倭泉	未龍	醫橋	桂蘭	聖醫







石竹

石竹花の葉は細く花は赤い

慈愛

芍薬

芍薬の花は白く葉は緑

一徹

風蘭

風蘭の花は白く葉は細

葉兒

玉簪

玉簪の花は白く葉は細

雀衣

虎耳

虎耳草の花は白く葉は細

雀衣

鷺草

鷺草の花は白く葉は細

雀衣

射干

射干の花は白く葉は細

雀衣

射干

射干の花は白く葉は細

雀衣

夏五ノ一

青鬼燈

青鬼燈の花は白く葉は細

且來

林檎

林檎の花は白く葉は細

徒遊

麻

麻の花は白く葉は細

青楓

麻

麻の花は白く葉は細

楚水

夏引糸

夏引糸の花は白く葉は細

菊羽

綿花

綿花の花は白く葉は細

有韻

紫菀

紫菀の花は白く葉は細

南人

紫菀

紫菀の花は白く葉は細

鼓勢

小角豆

小角豆の花は白く葉は細

卦士



胡麻  
三葉瓜

垣のりふの類はねのりふ角三葉  
瓜の葉も果も向ふや三葉瓜  
瓜の葉も果も向ふや三葉瓜  
冷瓜のりふ角三葉瓜の類  
瓜の葉も果も向ふや三葉瓜  
瓜の葉も果も向ふや三葉瓜  
瓜の葉も果も向ふや三葉瓜  
瓜の葉も果も向ふや三葉瓜

山麻  
如雷  
喜笑  
桂舎  
青出  
純青  
蝶碎  
桐字  
得々  
塔雨

喜笑五ノ二

夕顔

午のりふの類はねのりふ角三葉  
瓜の葉も果も向ふや三葉瓜  
瓜の葉も果も向ふや三葉瓜  
瓜の葉も果も向ふや三葉瓜  
瓜の葉も果も向ふや三葉瓜  
瓜の葉も果も向ふや三葉瓜  
瓜の葉も果も向ふや三葉瓜  
瓜の葉も果も向ふや三葉瓜

鳥語  
有魚  
夜夢  
寛河  
桃五  
巴明  
雨橋  
友字  
歌石  
米珠



百日

嗚呼其苦哉

素行

嗚呼其苦哉

鳴水

嗚呼其苦哉

文野

嗚呼其苦哉

一風

嗚呼其苦哉

佳松

雲雀鷹

練雲雀

鷹軒化虫

蟬

嗚呼其苦哉

飛川

嗚呼其苦哉

芳皓

嗚呼其苦哉

楚舟

嗚呼其苦哉

桃明

夏舟冬

量

嗚呼其苦哉

實例

嗚呼其苦哉

普成

嗚呼其苦哉

著我

嗚呼其苦哉

柳炎

嗚呼其苦哉

操姜

嗚呼其苦哉

志信

嗚呼其苦哉

如圖

嗚呼其苦哉

妻詩

嗚呼其苦哉

道肥

嗚呼其苦哉

始百

空蟬



毛虫

蚋

繩

蚤

虫解也... 毛虫... 蚋... 繩... 蚤... (Vertical columns of handwritten text)

馬隨 外六 繇山 出卷 翠臺 風後 如泊 抵雨 木采 九華

夏五ノ四

燈蛾

夏虫

蜻蛉

海月取

虫解也... 燈蛾... 夏虫... 蜻蛉... 海月取... (Vertical columns of handwritten text)

菊二 有若 白紗 青標 得佳 忌言 相友 孤身 橋中 東和



仲繪

川梅

秋近

秋待

秋

船の舟の刻の仲の舟

川梅の隣の中を

川梅の舟の中を

川梅の舟の中を

川梅の舟の中を

川梅の舟の中を

川梅の舟の中を

川梅の舟の中を

朱桂

寸

風馬

上貞

五

彌

呂

小

夏舟



